

あ い さ つ

昨年度の粟国島の総合調査に引続いて、今年度は渡名喜島の総合調査が行われ、渡名喜島でも村当局をはじめ、教育委員会や一般の方々の絶大な御協力のもとに、多大の成果を収めることができました。しかも、調査期間中に地元では「生活用具展」も開催され、このようなことは戦前戦後を通じて初めてのこととして、意義深い催しとなりました。そして、島の人々に郷土の良さを見直させ、また、祖先の尊い文化遺産を大切に保存したということでも大きな感銘を与えました。

当館ではその催しを、博物館でも開催して貰うべく村に依頼したが、所蔵者の都合で全部を公開することはできず、考古や地割制度の資料を主にした、特別展を開催しました。この特別展には図録や講演会等で一般にもわかりやすくし、また研究家の間にも好評を博しました。

渡名喜島は周囲わずか8kmの小島でありながら、古代から現代に至るまでの島の成り立ちや、人々の生活の営みがよくわかるような、恵まれた自然環境の中で、いろいろのものがよく保存されております。それは、渡名喜島が戦災をあまり受けなかったというだけでなく、島の人々が古くから相互扶助による共同組織体の中で、温かい人間的な暮らしを営んできたからだと思えます。それらを生み出した背景となった自然や人文を、当館の学芸員が総合調査でまとめたのが、今度の報告書であります。

従来、離島はやゝもすれば僻地として、中央から疎外され、人々の生活用式も軽視されてきました。だが、今や地方の時代として、離島や僻遠の地に目がむけられ、地域文化が尊重されております。当館ではつとにそのことに気付き、沖縄のすべての離島について総合調査を計画し、今度第2回目が行われ、次年度は、座間味村で行います。

一方、沖縄の離島の自然や人文の重要性については、学界でも早くから注目され、学術団体や研究家のグループ等により、これまでもしばしば調査が行われてきました。けれども各離島の総合調査が長期間、継続的に行われたことはあまりなかったと思えます。総合調査には地元の協力が必要不可欠であり、それは短期間では困難だからでありましょう。

当館は博物館として地元の人々と提携し、移動展等も行って地域文化の向上にも寄与しつつ、今後長く責任をもって、地道に調査を行い、かつ、それを博物館活動の面にも反映させたいと思っております。そのためにも今後も皆様の御協力をお願いしたいと思います。

最後に本報告書の発行にあたり、調査に御協力を賜わった比嘉正時村長をはじめ、桃原茂一教育長、比嘉松吉村史編集委員長その他関係各位に心から感謝を申し上げる次第であります。

昭和56年3月

沖縄県立博物館長 外 間 正 幸